



越中いちご屋の長谷川さんから紹介いただいた越田さん。
 「僕で大丈夫ですか…。」と、高岡のファミリールストランで取材が始まった。
 「仕事を探してたときにハープ園で大きな仕事があるから手伝ってみないかと紹介されました。」
 山肌が荒れていると見た目が悪い。そこで、お客さんに楽しんでもらえるように斜面にラベンダーを植える仕事だった。
 仕事が終わった時に、「農家として起業する県

おうちのひと言

農業研修生 越田 和秀

No.99

の補助があるが受けてみないか。」と誘われ、今年四月から農業研修を行っている。
 「自分の作った野菜を皆さんに食べてもらえたらおもしろい。やってみよう。好奇心だけで始めました。」
 今は、何平米にどれだけ植えるかとトン収穫でき、生活できるか等、勉強している。
 「将来は、専業で農業をやりたい。でも、何の野菜を作ったらいいか…、まだ分からない状態です。」
 研修先には、家庭菜園

この街で頑張る人、会社、団体を「人と人のつながり」で紹介していきます。



もあり、県外、都心の方を招いて収穫体験もしている。
 「子供と親と一緒に喜んでもらえるのは嬉しい。」
 富山県の農業研修を受けた方が7名。そのほとんどが親の跡継ぎだ。
 現在お世話になっているハープ園は、富山に戻ってきたときに、農業以外の業種から転職して始められた。
 「農地をどう確保するかも大きな課題なべくにとつて、本当に勉強になります。」
 農業は、収穫し出荷し直前までどうなるかわからないリスクがある。
 もうひとつの研修先で、今年の四月に大風が吹きハウスがつぶれた。その状況を目の当たりにして、資本に余裕がない状態で始める不安を感じた。
 それでも…、
 「収穫した野菜をお客さまに届け、おいしいねと食べてもらえることは、楽しい。」
 「おうちの一言でいいかな。お金ではなくて生産

者と消費者の顔がみえるようになったらいい。」と語る。
 「農業を通じて人の繋がりを感ずるようになった。サラリーマンだと同じ業種だとライバルになる。でも、農業だと同じ作物であっても横のつながりを大切にすることを学んだ。」
 繋がりがなければ、農業はできない。
 農業研修を始めて、体がひと回り大きくなった。
 「健康になったのかな。」
 「旬の一番うまい時期に食べてもらいたい。それがぼくの想いです。」
 『自給自足』
 『笑顔を届ける』
 『自分の伝えたいことを代弁してくれる野菜たち』
 『おいしいものとは？』
 『目標は何だろう？』
 『知れば知るほど奥が深い農業』
 『無農薬の難しさ』
 『有機栽培』
 『力不足』
 『不安』

『お客さまに食べていただけること』
 『僕の愛情』
 『農業を通じて伝えたいこと』
 『どうしたいか決める』
 『悩み』
 就農するまで、乗り越えることは多い。近道はない。



農業研修生
越田 和秀

今、出逢った仲間たちが
つながれば、奇跡は起きる。

Pro Bono de My Project

プロボノ活動・マイプロジェクトを
推進するための情報発信基地

LiTa Oyabe
ELABO

リタオヤベ イーラボ
富山県小矢部市鷺島37-2(ヤマシナ印刷株式会社2階)
facebook.com/ELABO.LiTaOyabe
運営組織:ヤマシナ印刷株式会社 / ELABO実行委員会

就農するために
一番大切なことは
何かな…?



しげるの一言